

第2回 千早赤阪村地方創生推進会議

アンケート調査結果概要

平成27年10月29日（木）

千早赤阪村

1 アンケート調査の目的等

1. 1 調査の目的

「千早赤阪村人口ビジョン」等の策定に当たり、国は「地方人口ビジョンの策定のための手引き」において人口の将来を展望するため、必要な調査・分析として、次の4つの項目を例示しています。

- ①住民の結婚・出産・子育てに関する意識や希望
- ②地方移住の希望に関する調査
- ③高校、専門学校、大学等卒業後の地元就職率の動向や進路希望
- ④圏域を単位とする地域連携

さらに、千早赤阪村が自主性・主体性を発揮し、地域の実情に沿った人口ビジョン及び総合戦略を策定するため、「**村民へのアンケート**」に加え、中学生へ現状や中学校卒業後の将来等を把握するため、「**中学生アンケート**」を実施しました。

1 策定の目的等

1.2 調査概要

「**村民へのアンケート**」と「**中学生アンケート**」の調査概要を示します。

(1) 「地方創生」に関するアンケート調査（村内アンケート）

調査手法	村広報誌による折込による発送、郵送による回収
調査対象者	村内にお住まいの18歳以上の方
母数	平成27年6月末現在 2,358世帯
調査の期間	平成27年7月1日(水)～平成27年7月14日(火)
調査件数	2,358件
抽出方法	無作為抽出法
回収状況	有効回収数398件 回収率16.9%

1 策定の目的等

1. 2 調査概要

(2) 中学生アンケート調査

調査手法	調査はマークシート式
対象者条件	千早赤阪村立中学校に通学している中学生1～3年生 109名
対象者項目数	13問(自由意見含む)
標本サイズ	有効回答数106票(回答率 97.2%) 1年 男子18／19人、女子16／16人 2年 男子12／12人、女子15／15人 3年 男子22／23人、女子23／24人
調査の期間	平成27年6月23日(火)～平成27年6月30日(火)

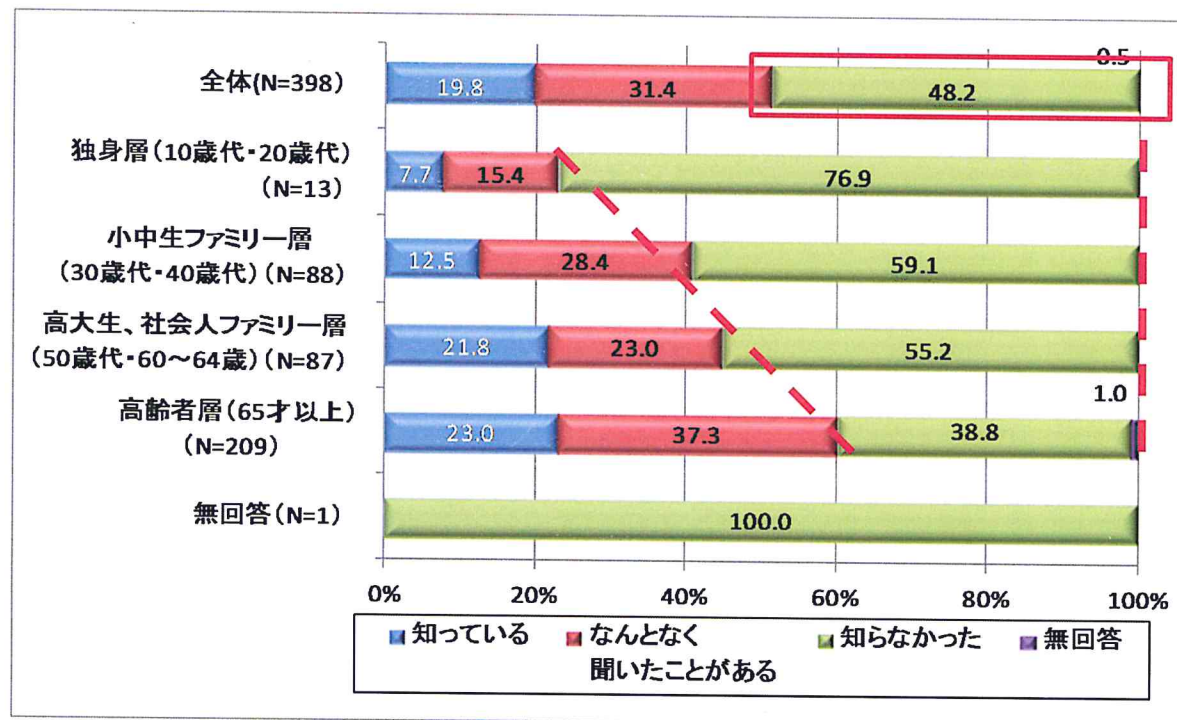
2 「地方創生」に関するアンケート調査（村民アンケート）

2.1 人口減少に関する意識について

■問9. 人口推計結果の認知について

○「知らなかった」48.2%、次いで「なんとなく聞いたことがある」31.4%、「知っている」19.8% ≪半数近くが認識していない≫

○年齢別では、「知っている」割合は、年齢が高くなるにつれて多く、10歳代の「知っている」は7.7%と少なくなっている。



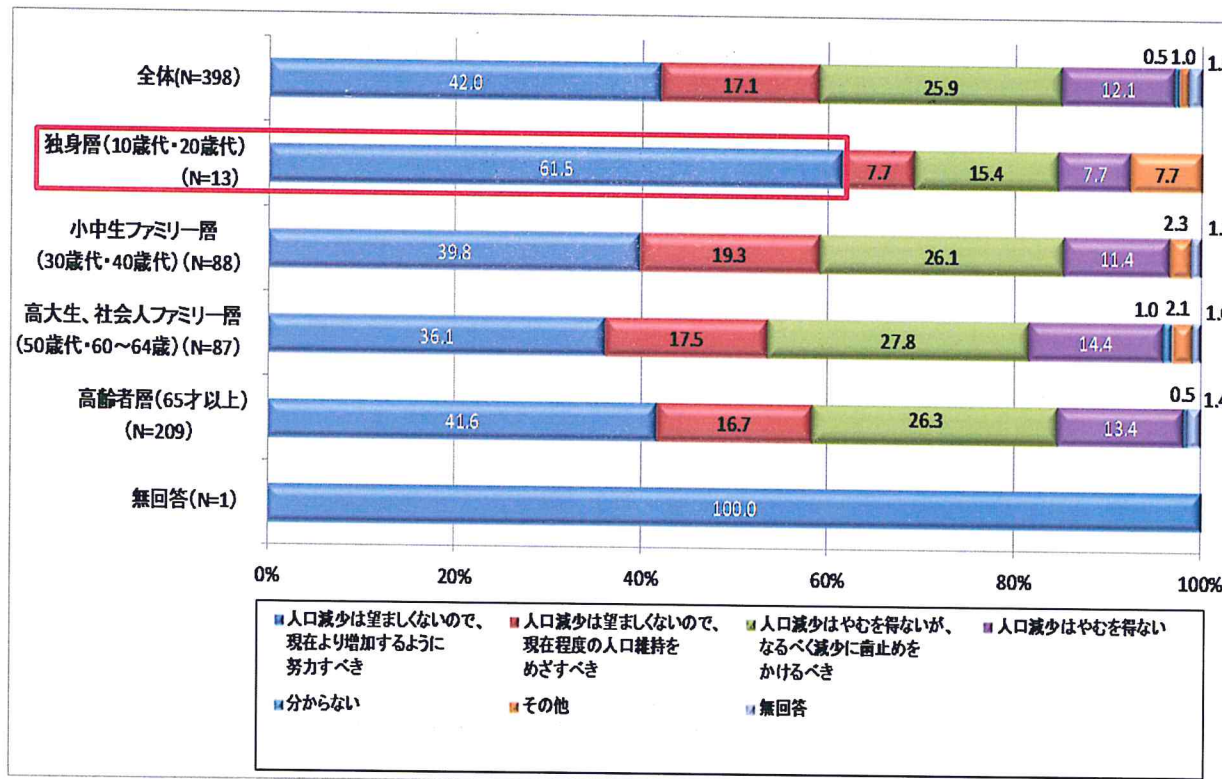
2 「地方創生」に関するアンケート調査（村民アンケート）

2.1 人口減少に関する意識について

■問10. 人口減少の考えについて

○「人口減少は望ましくないので、現在より増加するように努力すべき」42.0%、
「人口減少はやむを得ないが、なるべく減少に歯止めをかけるべき」25.9%、「人口減少は望ましくないので、現在程度の人口維持を目指すべき」17.1%

○年齢別では、10歳代で「分からない」が過半数を大きく超えている以外、その他の年齢で大差はない。



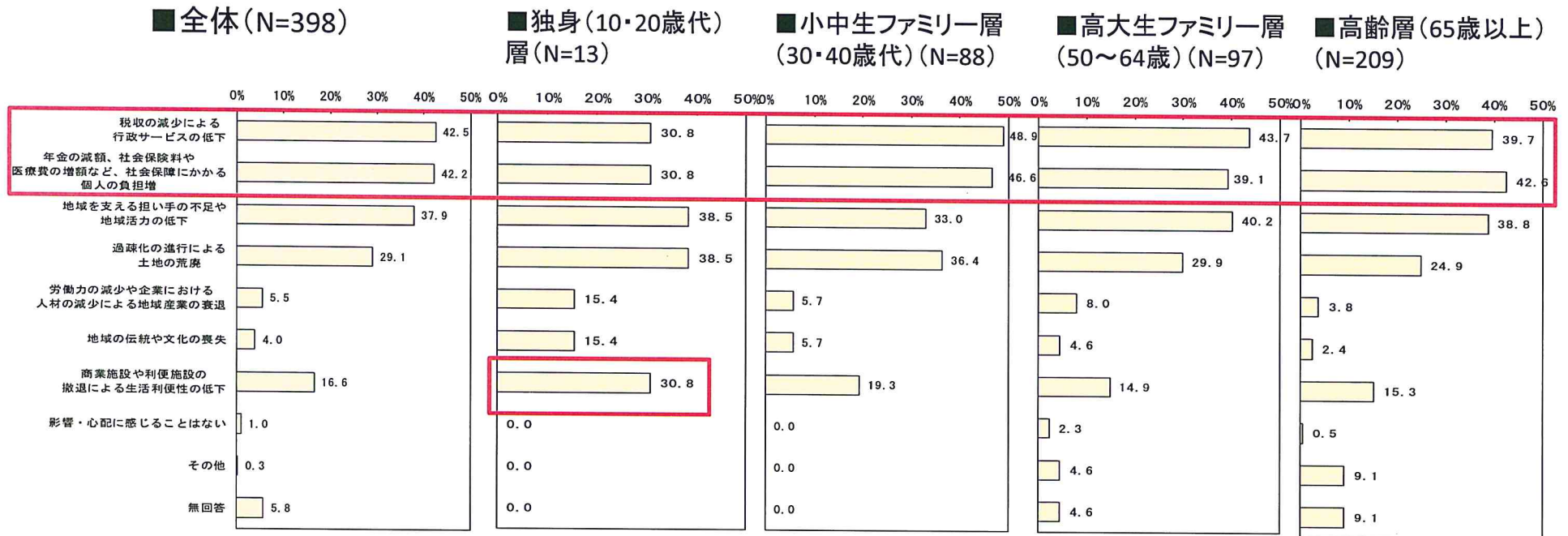
2 「地方創生」に関するアンケート調査（村民アンケート）

2.1 人口減少に関する意識について

■問11. 人口減少で生じる地域社会の影響について

○「**税収の減少による行政サービスの低下**」、「**年金の減額、社会保険料や医療費の増額**」4割弱

○年齢別では、**独身世代で、「商業施設の撤退による生活利便性の低下」**について、他世代より高い。



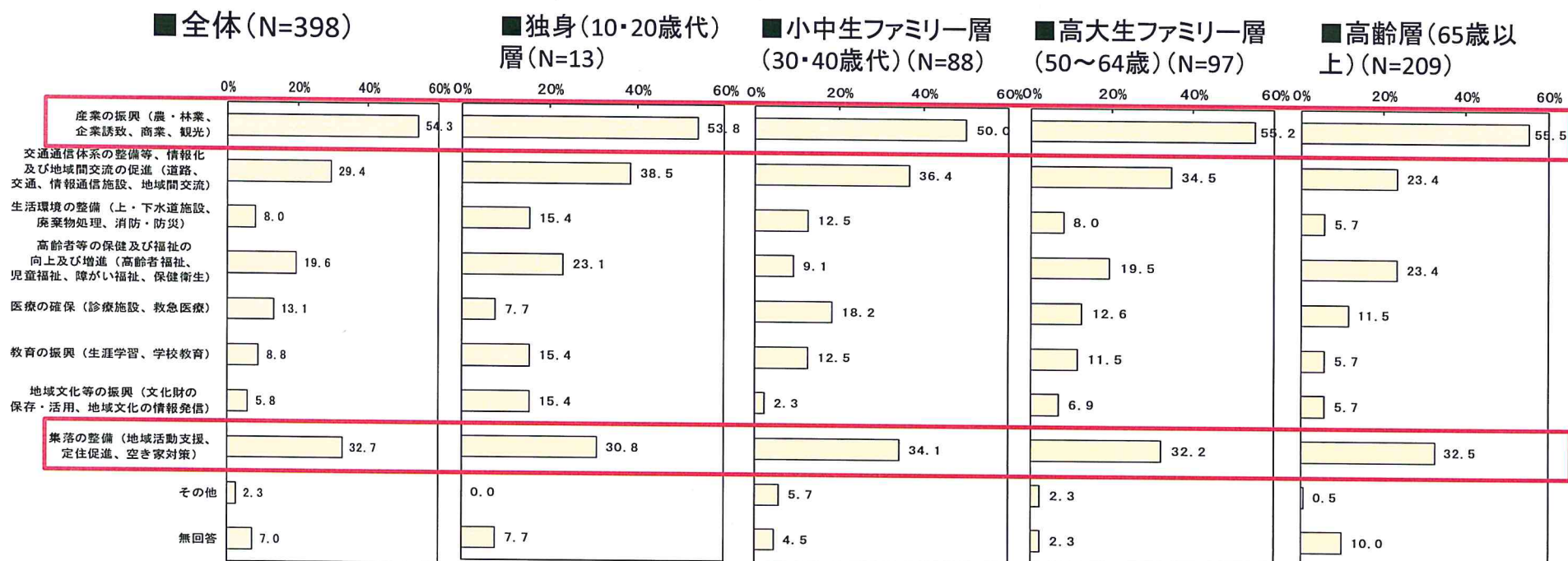
2 「地方創生」に関するアンケート調査（村民アンケート）

2.1 人口減少に関する意識について

■問12. 本村が重点的に取り組むべき施策について

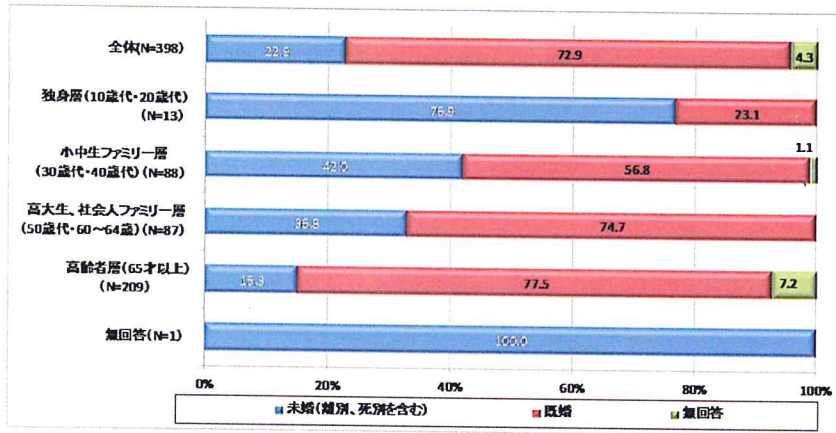
○「産業の振興」54.3%、「集落の整備」33.4%。

○年代別による、目立った違いは見られない。

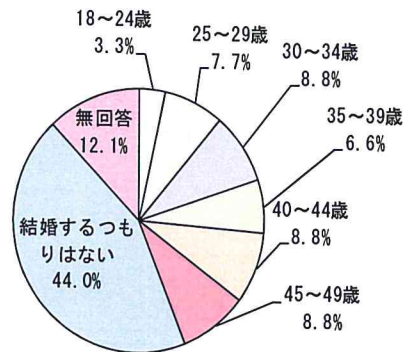


2 「地方創生」に関するアンケート調査（村民アンケート）

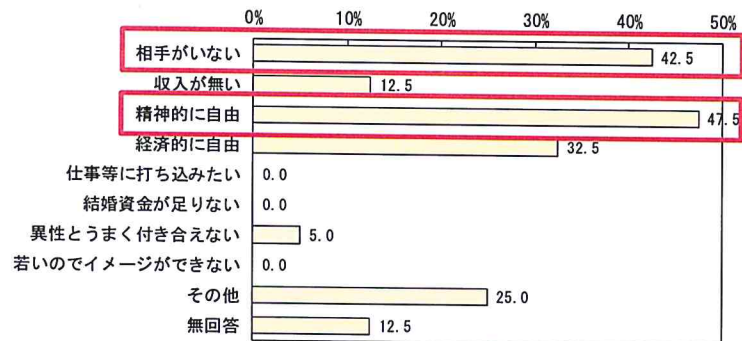
2.2 結婚・出産・子育ての希望をかなえるための取り組みについて



N=398



N=398



問13. 結婚の有無について

○「既婚」72.9%、「未婚」22.9%

約7割が「既婚者」

○年齢別では、10・20歳代が76.9%と未婚率が高いが、年齢が上がるにしたがって、既婚率が高い

問14. 希望する結婚（再婚）の時期について

○「結婚するつもりがない」44.0%

《4割弱》

問15. 結婚しない理由について。

○「精神的に自由でいられる」47.5%

《5割弱》

○「相手がいない」42.5%《4割強》

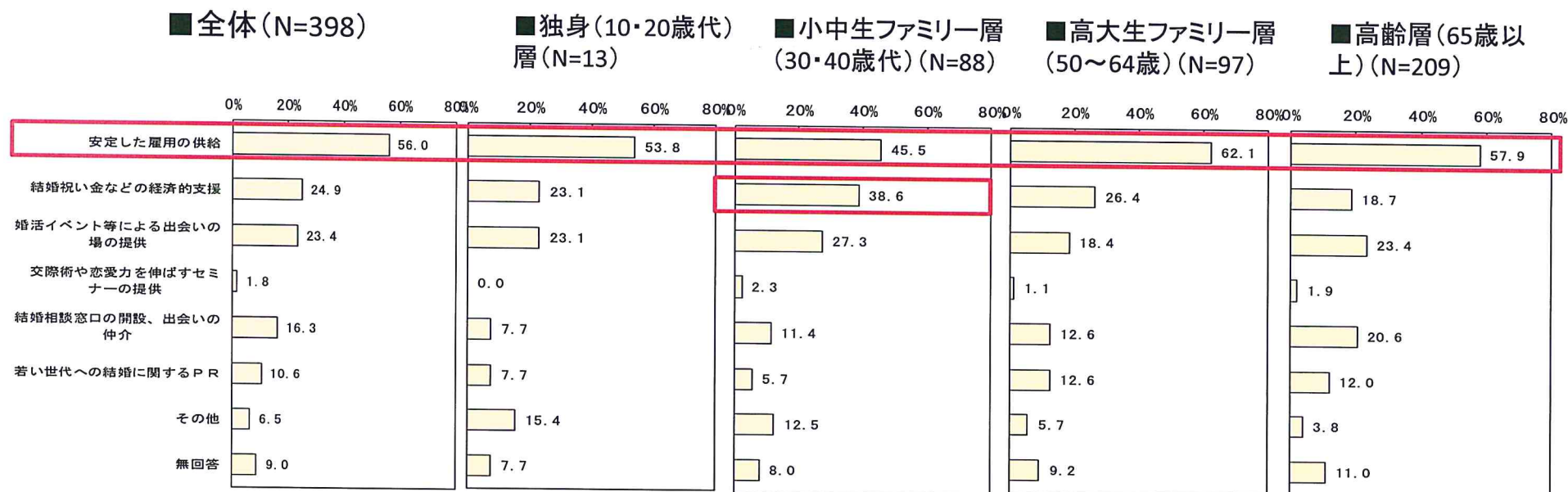
2 「地方創生」に関するアンケート調査（村民アンケート）

2.2 結婚・出産・子育ての希望をかなえるための取り組みについて

■問16. 取り組むべき結婚支援対策

○「安定した雇用の供給」56.0%

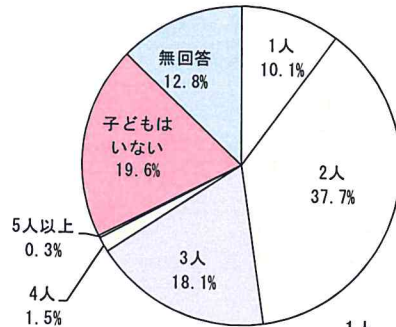
○年齢別では、50～64歳の「安定した雇用の供給」62.1%、
30・40歳代のファミリー層で「結婚祝い金などの経済的支援」38.6%が他と比べて高い



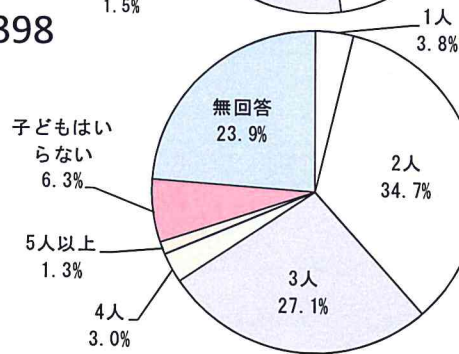
2 「地方創生」に関するアンケート調査（村民アンケート）

2.2 結婚・出産・子育ての希望をかなえるための取り組みについて

N=398

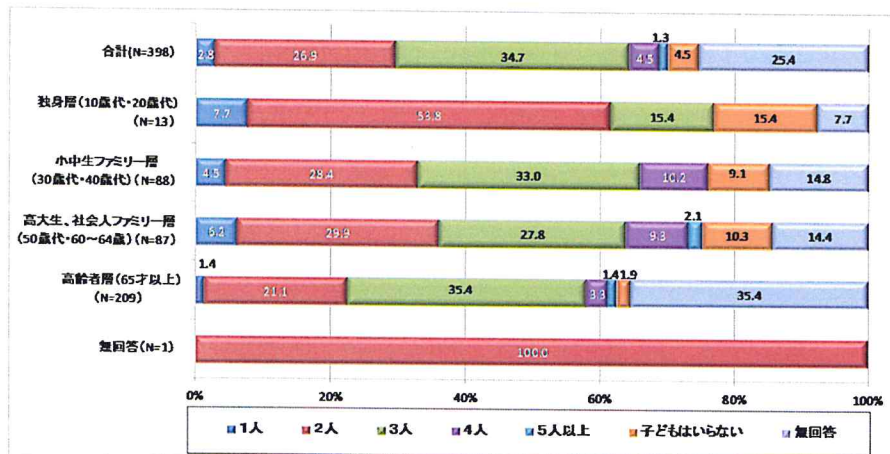


N=398



■問17. 現在の子どもの数について
○「2人」37.7%、「子供はいない(0人)」19.6%、「3人」18.1%

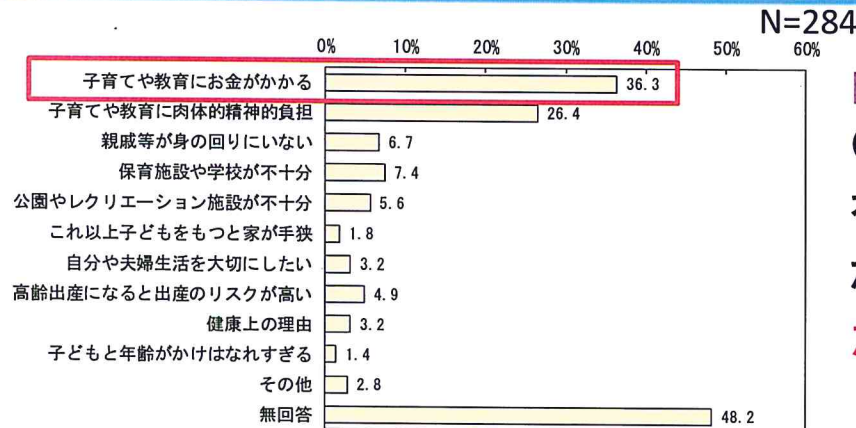
■問18. 希望する子供の人数について
○「2人」34.7%、「3人」27.1%、「子どもはいらない」6.3%



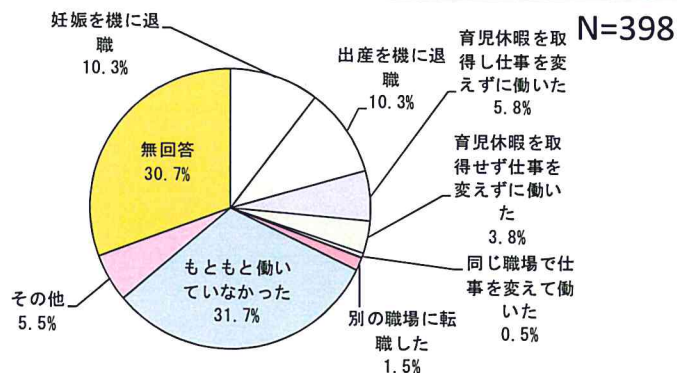
■問19. 理想的な子どもの数について
○「2人」26.9%、「3人」34.7%、「4人」と「子どもはいらない」4.5%
○年齢別では、独身層(10・20歳代)の「2人」が53.8%

2 「地方創生」に関するアンケート調査（村民アンケート）

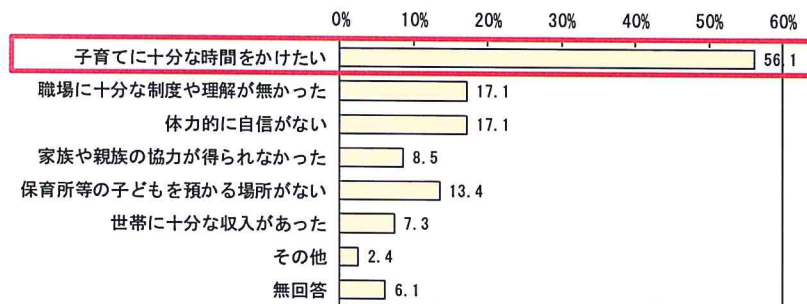
2.2 結婚・出産・子育ての希望をかなえるための取り組みについて



■問20. 実際の子どもより理想的な子どもが少ない理由
○問18が、問19よりも子どもの数が少ない方を対象に、理想より現実のほうが子どもが少ない理由を聞くと、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」36.3%



■問21. 就労形態の変化について
○「もともと働いてはいなかった」31.7%、「妊娠を機に退職した」・「出産を機に退職した」10.3%



■問22. 退職した理由について
○「子育てに十分な時間をかけたかったから」56.1%、「職場に十分な制度や理解が無かったから」・「体力的に自信が無かったか」17.1%

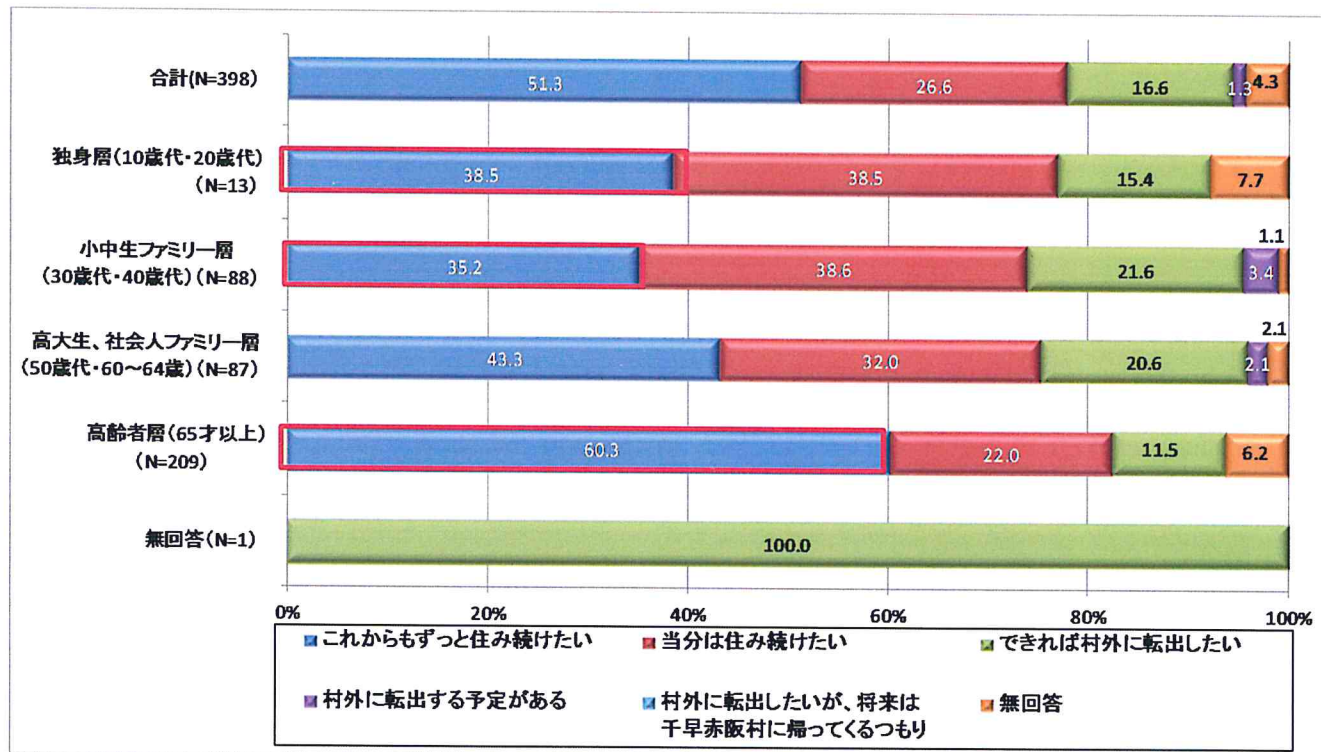
2 「地方創生」に関するアンケート調査（村民アンケート）

2.3 定住・移住の希望について

■問23. 定住・移住の有無について

○「これからもずっと住み続けたい」51.3%、「当分は住み続けたい」26.6%で、合計すると、約8割弱（77.9%）となっている。

○年齢別にみると、高齢者層（65歳以上）の「これからもずっと住み続けたい」が60.3%、逆に独身層やファミリー層が低い（3割代）。



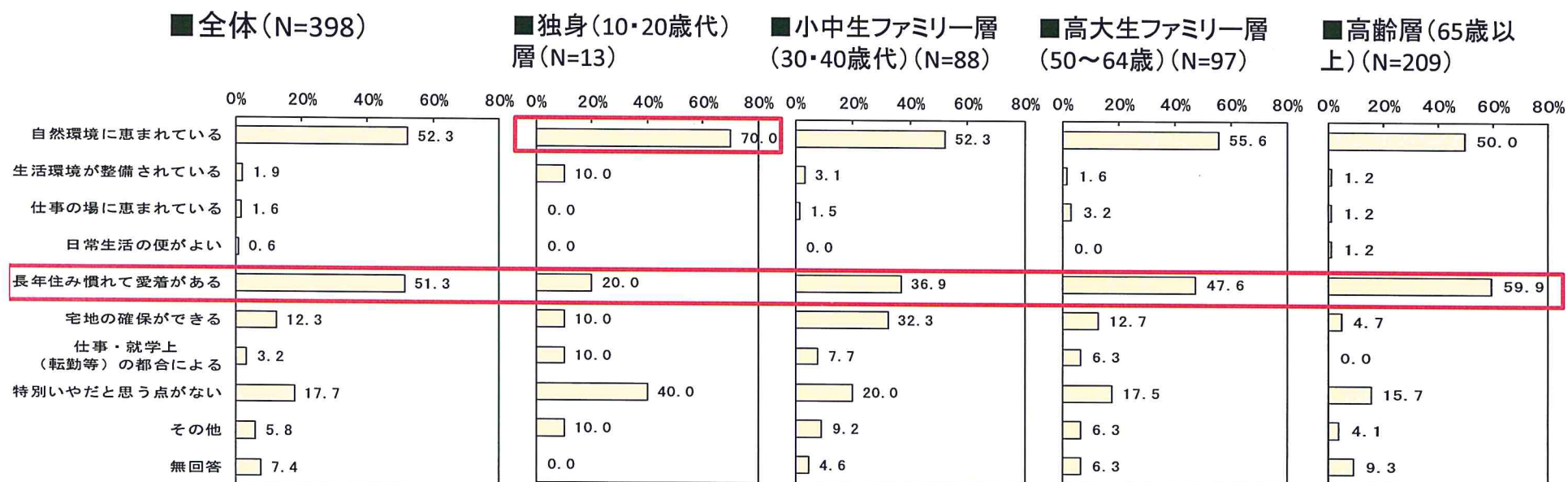
2 「地方創生」に関するアンケート調査（村民アンケート）

2.3 定住・移住の希望について

■問24. 将来も定住する理由について

○「自然環境に恵まれている」52.3%、「長年住み慣れて愛着がある」51.3%

○年齢別にみると、独身（10・20歳代）層の「自然環境が恵まれている」7割
高齢になるほど、「愛着」による割合が高い。



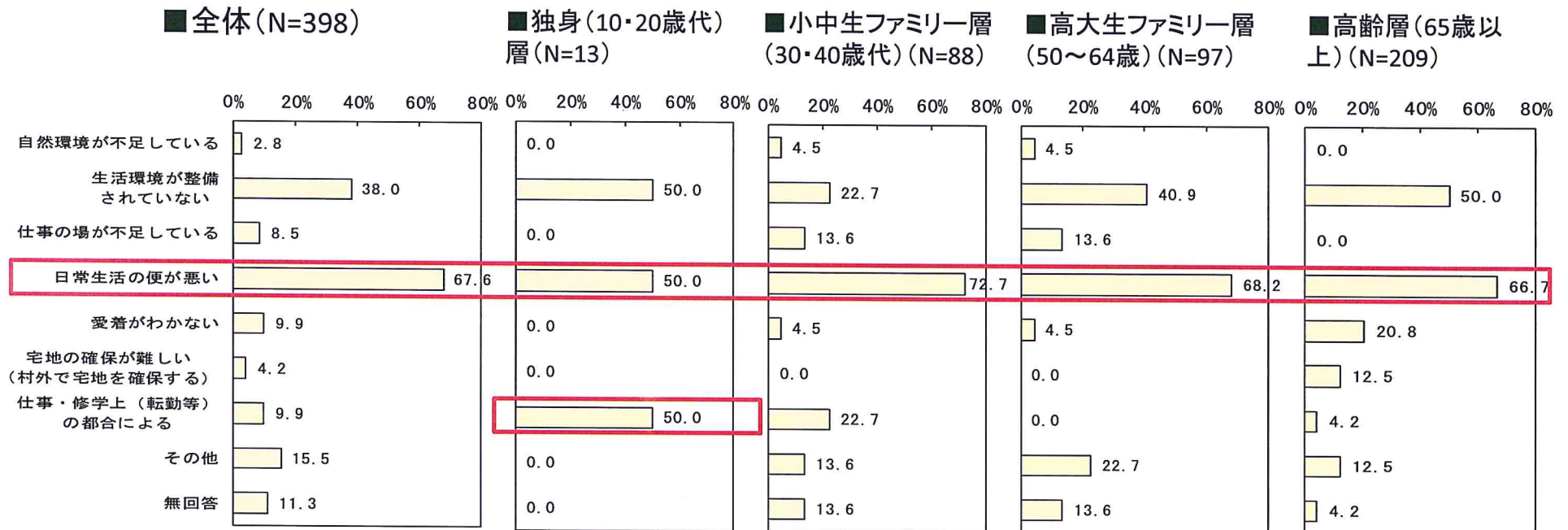
2 「地方創生」に関するアンケート調査（村民アンケート）

2.3 定住・移住の希望について

■問25. 将来転出する理由について

○「日常生活の便が悪い」67.6% ≪6割強≫

○年齢別にみると、小中生ファミリー層（30・40歳代）層の「日常生活の便が悪い」が72.7%と7割弱、独身で「仕事・就学上の都合」



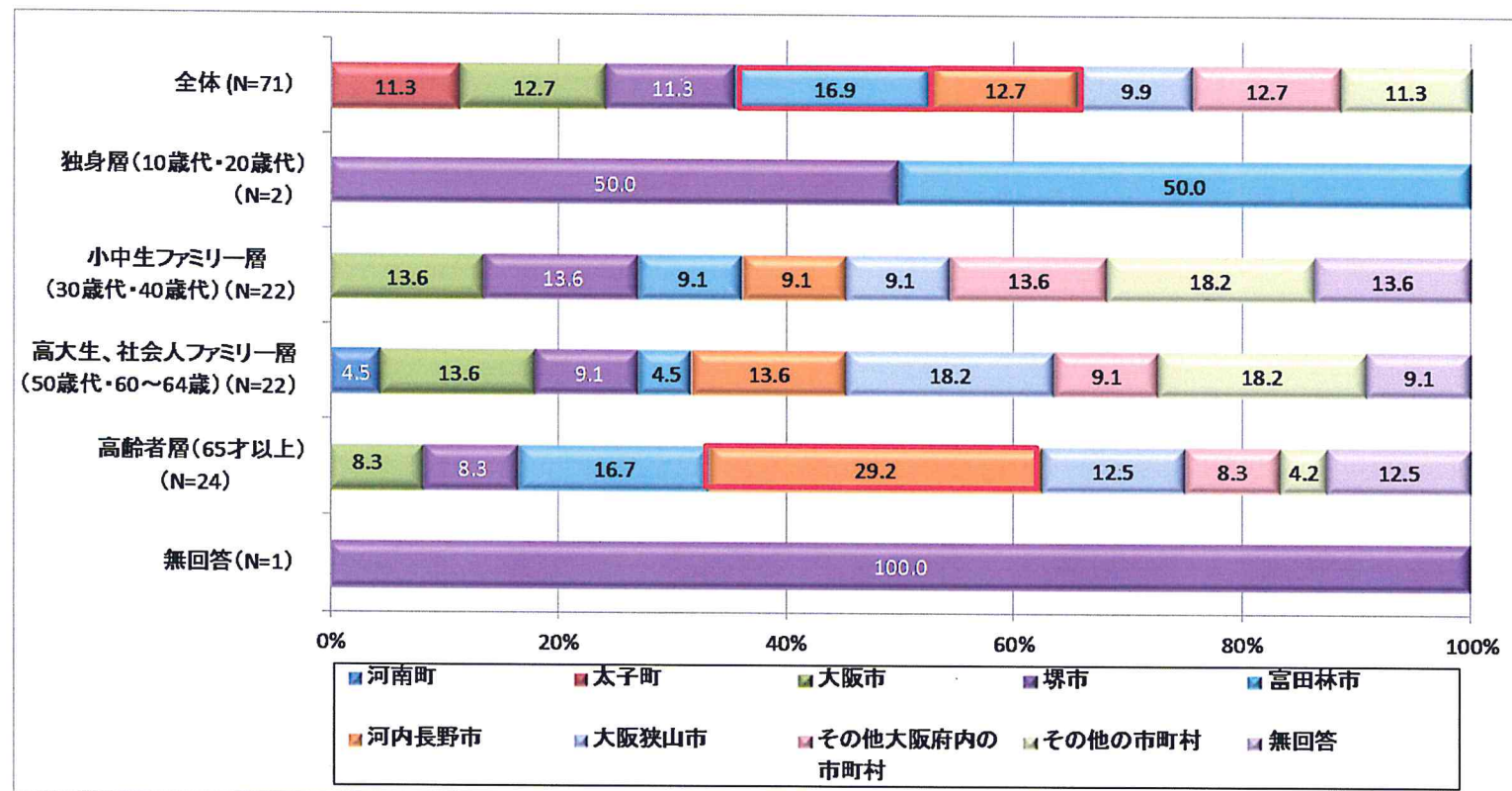
2 「地方創生」に関するアンケート調査（村民アンケート）

2.3 定住・移住の希望について

■問26. 移住する際に最も住んでみたいまちについて

○「富田林市」16.9%、「河内長野市」・「大阪市」12.7%

○年齢別にみると、高齢者層（65歳以上）の「河内長野市」が29.2%



2 「地方創生」に関するアンケート調査（村民アンケート）

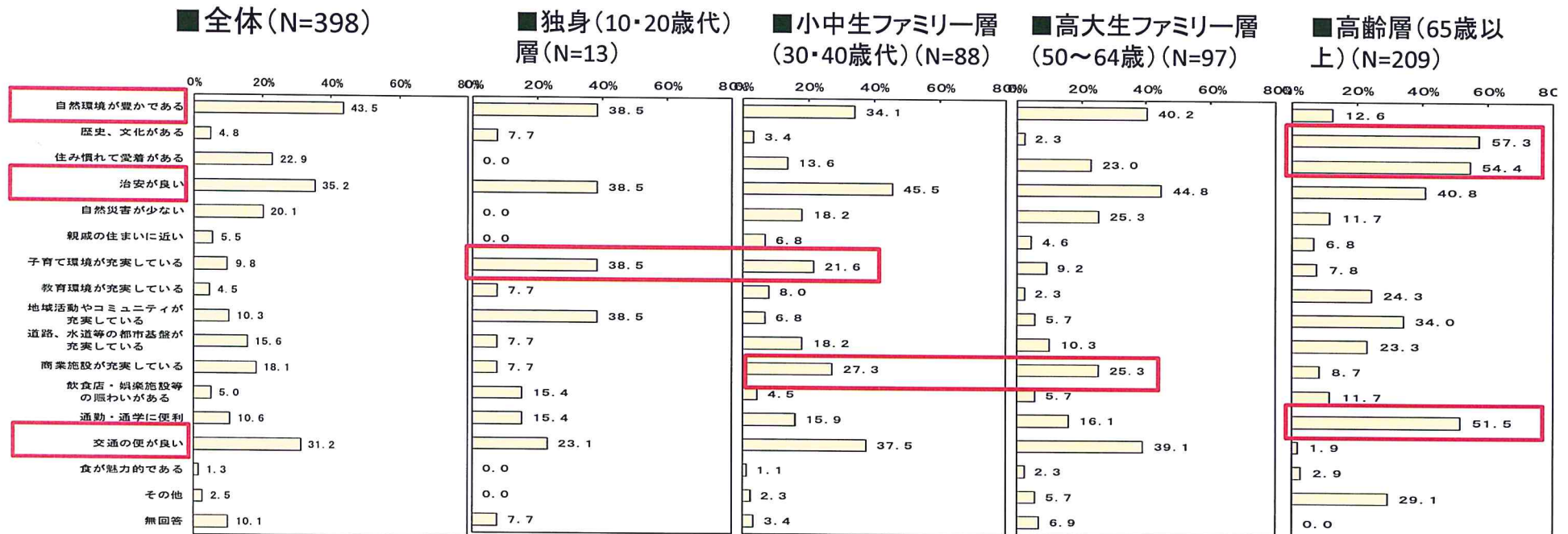
2.3 定住・移住の希望について

■問28. 最も重視する居住条件について

○「自然環境が豊かである」43.5%、「治安がよい」35.2%、「交通の便が良い」31.7%

○年齢別にみると、高齢者層（65才以上）で「歴史、文化がある」・「治安が良い」・「通勤通学に便利」で5割強と他年代より高い。

独身、小中生ファミリー層で「子育て環境」を、小中生・高大生ファミリー層で「商業施設の充実」が他年代より高い。



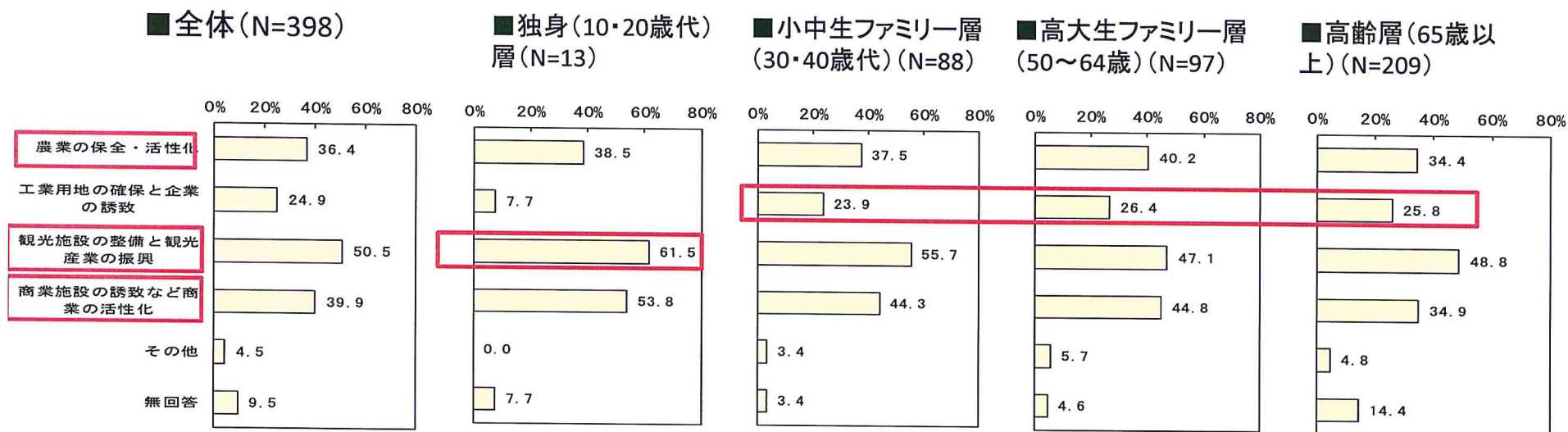
2 「地方創生」に関するアンケート調査（村民アンケート）

2.5 地域の産業について

■問33. 産業・雇用に関して力を入れてほしいことについて

○「観光施設の整備と観光産業の振興」が50.5%、「商業施設の誘致など商業の活性化」41.0%、「農業の保全・活性化」36.4%

○年齢別にみると独身層（10・20歳代）の「観光施設の整備と観光産業の振興」が61.5%、独身以外で「工業用地の確保と企業誘致」が高い



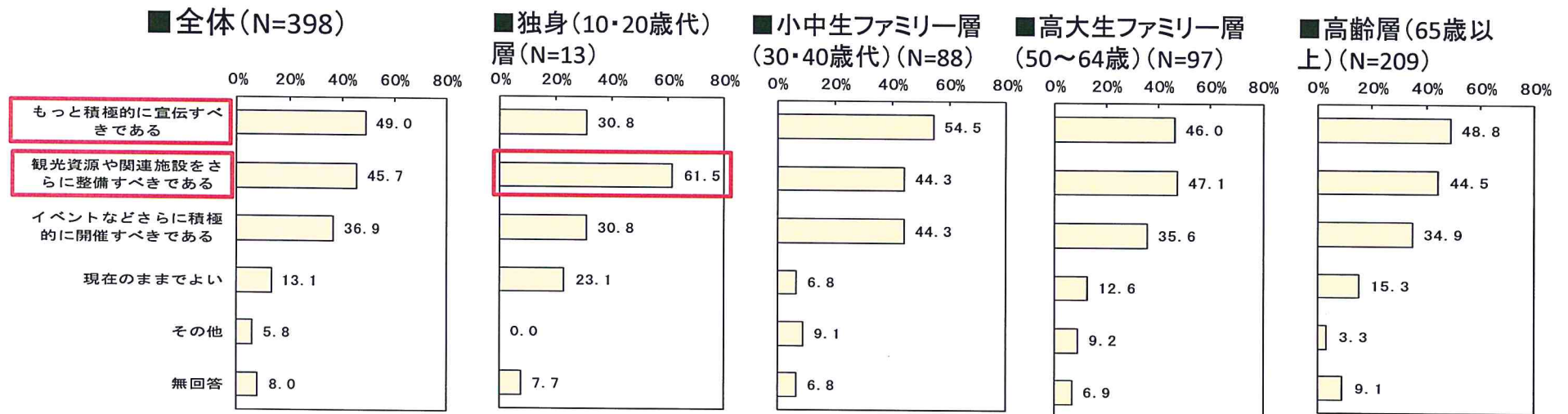
2 「地方創生」に関するアンケート調査（村民アンケート）

2.5 地域の産業について

■問34. 観光資源への活性化への意見について

○「もっと積極的に宣伝すべきである」49.0%、「観光資源や関連施設をさらに整備すべきである」41.0%、「イベントなどさらに積極的に開催すべきである」37.7%

○年齢別にみると、**独身層(10・20歳代)**の「観光資源や関連施設をさらに整備すべきである」が61.5%



2 「地方創生」に関するアンケート調査（村内アンケート）

2.6 まとめ

【将来人口について】

- 本村の将来人口推計結果に対する認識が低く、若い方ほどその傾向が強い。逆に知っている人は、高齢になるほど多くなっている。
- 本村の人口減少について、何らかの対策が必要であると捉えており、特に産業の振興と集落の整備があるとされている。

【結婚・出産・子育てについて】

- 本村は既婚者の割合が多いが、年齢が若くなるにつれ、独身者が多い。
- 独身者は結婚意思が低く、その背景として相手の問題や精神的な自由度を求める傾向がある。
- 理想的には2人の子どもを得ること、現実には2人もしくは3人である世帯が多くなっている。
- 出産時の就労形態では、元々働いていなかった人が多くなっている。

2 「地方創生」に関するアンケート調査（村内アンケート）

2.6 まとめ

【定住・移住の希望について】

●本村での定住については**8割弱**が定住を希望しており、その背景として**自然環境に恵まれていることや愛着があること**となっている。

●逆に移住したい人については、**日常生活の便の悪さや生活環境の悪さ**となっている。移住したいまちについては、「**富田林市**」が多く、**治安の良さ、自然環境の豊かさ、交通の便の良さ**がその理由である。

【大学卒業後の進路について】

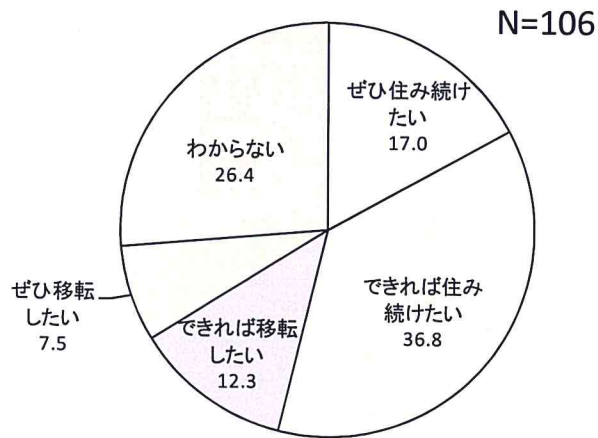
●仕事を選択するには**やりがいや面白さを重視**しており、給与や賃金はこれに比べ優先順位が低い。

【地域の産業について】

●産業・雇用や観光資源への活性化については、**観光資源のさらなる整備や観光産業の振興が多く、観光資源に対する整備が求められる。**

3 千早赤阪村「地方創生」に関する中学生アンケート調査結果

3.1 将来について

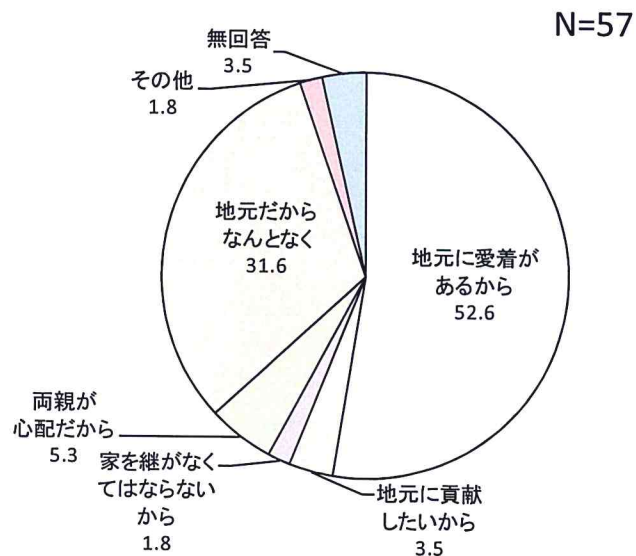


問10 将来の本村での居住有無

○「できれば住み続けたい」36.8%、「ぜひ住み続けたい」17.0%、「できれば移転したい」12.3%

○村内での居住継続意向を持っている人（「できれば住み続けたい」+「ぜひ住み続けたい」）は、53.8%（5割強）

○「わからない」は、26.4%と約2割半となっている。



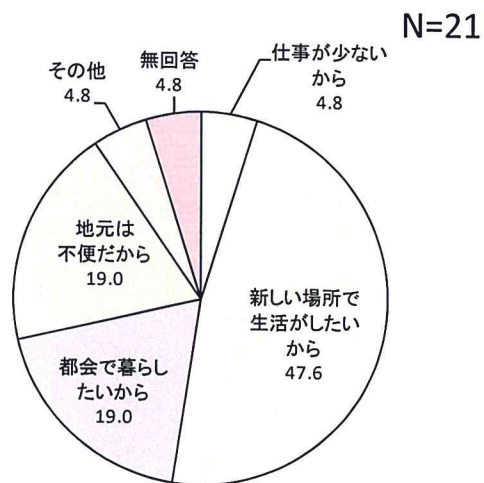
問11 本村に居住する理由

○「地元にあこがれがあるから」52.6%、「地元だからなんとなく」31.6%、「両親が心配だから」5.3%

《地元にあこがれを持っている人が約5割》

3 千早赤阪村「地方創生」に関する中学生アンケート調査結果

3.1 将来について



■問12 本村より移転したい理由

○「新しい場所で生活がしたいから」47.6%、
「都会で暮らしたいから」・「地元は不便だから」
19.0%

3 千早赤阪村「地方創生」に関する中学生アンケート調査結果

3.2 まとめ

【将来の進路】

- 現時点で大学進学の意味がある人は6割以上で、進学先は大阪近郊であるが、自宅より通学すると進学による転居は少ない。

【将来の仕事】

- 付きたい仕事は医療福祉関係や公務員関係が多く、重要視することは「やりがいや面白さ」「職種や仕事の内容」となっている。
- 就労場所については大阪市内が多いが、「特に決めていない」も約5割となっており、就職場所について決めていない人が多い。

【本村での居住】

- 将来の居住は、「住み続けたい」が約5割となっており、その主な理由は「地元への愛着」を持っている。
- 移転したい人の理由は、「移転先で生活したい」「地元は不便」「都会で暮らしたい」と都会へのあこがれを持つ人が多い。